

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	国語	科目：	現代文演習	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	精選論理国語（東京書籍）		副教材	大学入試国語頻出問題 1 2 0 0（いいずな書店）			
	----- 新版大学入試共通テスト実践演習 論理・文学編（数研出版）						

年間指導目標：
大学一般受験に対応できる現代文の実践力を、演習を行いながら養成する。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	一般入試受験に対応できる語彙や文法の知識、文学史の知識等を身につけることができる。	文章の精読や読んだ上で考えを深めることができる。また効率よく文章を読解する力や問題を解く際の着眼点等を身に付けることができる。	一般入試受験のために主体的に問題演習に取り組むことができる。

評価方法											配当 時数
a:定期考査		b:パフォーマンス (実技・実習・課題)		c:小テスト等		d:自己評価		e:授業態度			
学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e		
1 学期	中 間 考 査	○評論文読解の基礎を学習し、文章の構造や接続詞に注意して読む。	(知)	読解の知識を活かして問題演習に取り組んでいる。	○	○	○	○		23	
		○小説読解の基礎を学習し、表現に注意して読む。	(思)	文の構造や表現に注意して読むことができる。	○	○		○			
		○一般入試に必要な漢字や語彙の習得を行う。	(態)	積極的に文章を読もうとする。		○	○	○	○		
1 学期	期 末 考 査	○評論文読解の基礎を学習し、文章の構造や接続詞に注意して読む。	(知)	読解の知識を活かして問題演習に取り組んでいる。	○	○	○	○		24	
		○小説読解の基礎を学習し、表現に注意して読む。	(思)	文の構造や表現に注意して読むことができる。	○	○		○			
		○一般入試に必要な漢字や語彙の習得を行う。	(態)	積極的に文章を読もうとする。		○	○	○	○		

2 学 期	中 間 考 査	○記述問題の解答の組み立て方を学習し、実践演習する。	(知)	読解の知識を活かして問題演習に取り組んでいる	○	○	○	○		23
		○選択肢問題の演習を積み、時間内に解ききる実力を身に付ける。	(思)	文の構造や表現に注意して読み、解答を作成できる。	○	○		○		
		○一般入試に必要な漢字や語彙の習得を行う。	(態)	積極的に問題演習に取り組んでいる		○	○	○		
2 学 期	期 末 考 査	○記述問題の解答の組み立て方を学習し、実践演習する。	(知)	読解の知識を活かして問題演習に取り組んでいる	○	○	○	○		24
		○選択肢問題の演習を積み、時間内に解ききる実力を身に付ける。	(思)	文の構造や表現に注意して読み、解答を作成できる。	○	○		○		
		○一般入試に必要な漢字や語彙の習得を行う。	(態)	積極的に問題演習に取り組んでいる		○	○	○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	○受験校に合わせた演習を積み、実践力を養う。	(知)	読解の知識を活かして問題演習に取り組んでいる	○	○	○	○		
		○一般入試に必要な漢字や語彙の習得を行う。	(思)	文の構造や表現に注意して読み、解答を作成できる。	○	○		○		
			(態)	積極的に問題演習に取り組んでいる		○	○	○	○	
合計										94

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	公民科	科目：	政治・経済	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	高等学校 政治・経済（清水書院）		副教材	フォーラム 公共（とうほう）			

年間指導目標：
・ 広い視野に立ち、国際社会に主体的に生きる社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
・ 現実社会の複雑な課題を把握し、説明するとともに、構想する力、公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。
・ 現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・ 現代日本における政治・経済の諸課題およびグローバル化する国際社会の諸課題について、基礎的基本的な知識を身につけ、理解を深めている。 ・ 諸資料から課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。	現代日本における政治・経済の諸課題およびグローバル化する国際社会の諸課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現できている。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学 期	中 間 考 査	第1編第1章 現代政治のしくみと日本 ・ 政治とはなにか ・ 現代民主政治へのあゆみと基本原理 ・ 議会制民主主義と世界の政治体制 ・ 日本国憲法の成立と基本原理	(知)	・ 民主政治のあゆみが理解できている。・ 日本国憲法の三大原理や第9条の内容が理解できている。	○	○	○	○		16
			(思)	・ 民主政治における国家と個人のあり方が考察できている。	○	○	○		○	
			(態)	・ 民主政治が自らの生活とかわっていることを理解し、民主社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。		○		○	○	
1 学 期	期 末 考 査	・ 基本的人権と新しい人権 ・ 平和主義と安全保障 ・ 日本の政治機構 ・ 政党政治と選挙制度 ・ 地方自治	(知)	・ 日本国憲法に見られる三権相互の関係とそれぞれの役割が理解できている。	○	○	○	○		18
			(思)	・ 日本国憲法で保障されている権利がどのように適用されているのかを調べ、公共の利益との調和について考察できている。	○	○	○		○	
			(態)	・ 現代日本の政治制度と自らの生活とのかかわりについて関心を持ち、課題を解決しようという意欲をもって学習に臨もうとしている。		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	第2章 現代経済のしくみと日本 ・経済活動と経済主体 ・市場経済の機能と限界 ・国民経済と景気変動 ・物価とその変動 ・金融と財政のしくみとはたらき ・日本経済のあゆみ	(知)	・市場経済のメカニズムが理解できている。・金融・財政のしくみを理解している。	○	○	○	○		18
			(思)	・需給曲線を使って、価格変動について考察できている。景気の先行きが判断でき、自ら経済の動向を予測できている。	○	○	○		○	
			(態)	・市場機構だけでは解決できない経済的課題を指摘でき自らの生活と結び付けて経済と接することができている。		○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	・企業の活動と役割 ・労働問題と社会保障制度 ・農業と食料問題	(知)	労働問題、社会保障制度、農業と食料問題について理解し、諸資料から課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。	○	○	○	○		16
			(思)	労働問題、社会保障制度、農業と食料問題について、持続可能な社会を形成するために必要な政策課題を見だし、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○		○	
			(態)	労働問題、社会保障制度について関心をもち、抱える課題を解決しようという意欲をもって学習に臨もうとしている。		○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	第2編第1章 現代の国際社会と政治 第2章 現代の国際社会と経済	(知)	・冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れが理解できている。・戦後の国際経済の流れが理解できている。	○	○				10
			(思)	・国際政治の現状と課題について考察できている。・円高などの為替相場の変動が経済にどのような影響を与えるのか考察できている。	○	○		○	○	
			(態)	・国際社会で平和と安全を維持するため何が有効なのか、自ら意見が持て他者と意見の交流ができている。・グローバル化した国際経済について自分なりの課題や展望が持てている。		○		○	○	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	数学科	科目：	数学Ⅲ	単位数：	4	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	数研出版 新編 数学Ⅲ	副教材	数研出版 3 TRIAL数学Ⅲ + C				

年間指導目標：

極限、微分法及び積分法の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価方法											配当 時数
a:定期考査		b:パフォーマンス (実技・実習・課題)		c:小テスト等		d:自己評価		e:授業態度			
学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e		
1 学 期	中 間 考 査	第1章 関数	(知)	分数関数・無理関数の定義を理解し、グラフをかいたり、不等式を解くことができる。	○	○					
		第1節 分数関数		逆関数・合成関数の定義や求める手順を理解し、種々の関数の逆関数・合成関数を求めることができる。							
		第2節 無理関数		数列の極限値の定義を理解し、数列の収束、発散を調べ、極限を求めることができる。							
		第3節 逆関数と合成関数									
		第2章 極限	(思)	分数関数・無理関数のグラフと直線の共有点の座標を、連立方程式の実数解に読み替えることができる。	○	○		○		32	
		第1節 数列の極限		逆関数の定義から、逆関数の定義域・値域や性質を考察することができる。							
				無限等比級数の収束、発散を、既習である等比数列の和の極限を調べることで考察できる。							
			(態)	分数不等式・無理不等式の解の意味を考え、グラフを用いて考察しようとする。		○		○	○		
				逆関数、合成関数の考え方に興味・関心を示し、具体的な問題に取り組もうとする。							
				不定形の数列の式を、不定形を解消するように工夫して変形しようとする。							
1 学 期	期 末 考 査	第2節 関数の極限	(知)	指数関数、対数関数・三角関数の極限が求められる。	○	○					
		第3章 微分法		定義に基づいて、様々な関数の連続性、不連続性を判定することができる。							
		第1節 導関数		指数関数、対数関数・三角関数の導関数を理解し、種々の関数の導関数を計算できる。							
		第2節 いろいろな関数の導関数		媒介変数tで表された関数の導関数を、tの関数として表すことができる。							
			(思)	微分係数の2通りの表し方を理解し、その図形的意味を考察することができる。	○	○		○		32	
				微分可能性を、定義に基づいて考察することができる。							
				導関数を、微分係数から得られる新しい関数として理解することができる。							
			(態)	高次導関数の計算において、第n次導関数の形を予想することができる。				○	○		
				微分係数の図形的意味を考察しようとする。							
				微分可能性と連続性の関係について、興味・関心をもつ。							
				自然対数の底eを考える必要性に興味をもち、考察しようとする。							
				陰関数 $F(x, y) = 0$ を微分する方法の簡便さに関心を示す。							
				様々な曲線の媒介変数表示について興味をもち、考察しようとする。							

2 学 期	中 間 考 査	第4章 微分法的应用 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用	(知)	微分係数の意味を理解しており、接線の方程式を求めることができる。 関数の極大値・極小値や最大値・最小値を調べる際に、増減表をかくて考 察している。 曲線の凹凸の定義を理解し、第2次導関数の符号で曲線の凹凸が判定でき る。 導関数を利用して、不等式を証明することができる。	○	○				32
		(思)	不等式の形から、平均値の定理を利用するための関数および区間を考察する ことができる。 平均値の定理を利用して「導関数の符号と関数の増減」の関係を証明する方 法を、理解することができる。 導関数の意味から、点の位置を表す関数の導関数が速度、第2次導関数が加 速度を表すことを理解できる。	○	○		○			
		(態)	存在定理である平均値の定理に興味をもち、図形的意味を考察しようとする。 関数の増減や極値の問題を、導関数を用いて考察しようとする。 関数のグラフの様々な形に興味をもち、様々な方法でそれを調べようとする。 方程式や不等式を関数的視点でとらえ、解決しようとする。		○		○	○		
2 学 期	期 末 考 査	第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法的应用	(知)	不定積分の定義や性質を理解し、それを利用して種々の関数の不定積分を計 算できる。 定積分の定義や性質を理解し、それを利用して種々の関数の定積分を計算で きる。 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。	○	○				32
		(思)	微分法の逆演算として、不定積分を計算することができる。 合成関数の微分の逆演算として、置換積分法を理解することができる。 積の微分の逆演算として、部分積分法を理解することができる。 曲線で囲まれた部分の面積を微小な長方形で近似する考え方で、定積分と 和の極限との関係を考察することができる。 定積分が、図形の計量に関して有用であることを認識している。	○	○		○			
		(態)	簡単に不定積分の計算ができないとき、被積分関数の特徴から置換積分や 部分積分を利用しようとする。 微分方程式について興味をもち、微分方程式を解いてみようとする。 置換積分法により、複雑な関数の定積分を求めることに興味・関心を示 す。		○		○	○		
3 学 期	学 年 末 考 査	課題学習	(知)	これまでに学んだ内容に関する課題について、主体的に学習し、数学のよ さを認識する。		○		○		28
			(思)							
			(態)							
合計										156

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	数学科	科目：	数学C	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	数研出版 新編 数学C	副教材	数研出版 3 TRIAL数学III + C				

年間指導目標：

ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。なお、ベクトルについては夏季講習で学習する。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさや向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価方法											配当 時数
a:定期考査		b:パフォーマンス (実技・実習・課題)		c:小テスト等		d:自己評価		e:授業態度			
学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e		
1 学期	中 間 考 査	第1章 平面上のベクトル	(知)	ベクトルの成分表示の仕組みを理解し，具体的なベクトルを成分表示できる。また，そのベクトルの大きさを求めることができる。 ベクトルの内積の定義を理解し，内積を求めることができる。 線分の内分点・外分点を位置ベクトルで表す公式を，実際の図形に適用できる。 直線のベクトル方程式について，媒介変数を用いて表すことができる。	○	○				16	
			(思)	点の座標とベクトルの成分の関係を，座標平面上の図形の問題に活用できる。 ベクトルの垂直条件を活用して，与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 位置ベクトルを活用して，3点が一直線上にあることを証明できる。 ベクトルの内積を活用して，図形の性質を証明できる。	○	○		○			
			(態)	成分表示されたベクトルの演算法則を，ベクトルの演算法則から導き出そうとする。 ベクトルの演算に興味をもち，数式の演算法則との類似点を考察しようとする。 様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。		○		○	○		
1 学期	期 末 考 査	第2章 空間のベクトル	(知)	空間図形において，ベクトルの和や差を考えることができる。 ベクトルの成分表示について，平面上のベクトルの拡張になっていることを理解し，ベクトルが等しくなるように成分を定めたり，成分表示されたベクトルの大きさを求めたりすることができる。 空間のベクトルの内積や，成分表示された2つのベクトルのなす角を求めることができる。	○	○				16	
			(思)	空間のベクトルが3つのベクトルの線形和で1通りに表される理由について，平面上のベクトルが2つのベクトルの線形和で1通りに表されることから説明できる。 ベクトルの垂直条件を活用して，与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 空間における図形を，1つの頂点に関する位置ベクトルで考察できる。	○	○		○			
			(態)	平面上のベクトルの性質などが空間でも成り立つことから，ベクトルの定義が次元によらないことに興味をもつ。 平面上のベクトルの内積の性質が空間でも成り立つことから，内積の定義が次元によらないことに興味をもつ。 座標平面上の図形の方程式について改めて正しく理解し，座標空間についても同じ考え方で図形の方程式について考察しようとする。		○		○	○		

2 学 期	中 間 考 査	第3章 複素数平面	(知)	1つの複素数が複素数平面上で1つの点を表すことを理解し、点を複素数平面上に表すことができる。 複素数の極形式について理解し、複素数を極形式で表すことができる。 ド・モアブルの定理を理解し、複素数のn乗を求めることができる。 複素数の方程式について、その意味を考えたり計算したりすることで、表す図形を求めることができる。	○	○				16
			(思)	複素数のn乗根がちょうどn個存在することを、極形式を用いて考察できる。 線分の内分点を表す複素数を活用して、三角形の重心を表す複素数を求めることができる。 点zと連動して動く点wが描く図形について、その式の意味も含めて考察したり説明したりできる。	○	○		○		
			(態)	複素数の積の図形的な意味から、ド・モアブルの定理を自ら見出したり証明したりしようとする。 複素数のn乗根を複素数平面上で図示し、その特徴を見出そうとする。 図形の問題を、複素数の演算の図形的意味を用いて積極的に考察しようとする。 複素数の方程式が表す図形について、複数の方法で考察しようとする。		○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	第4章 式と曲線	(知)	放物線の標準形について理解し、放物線の概形をかいたり焦点や準線を求めたりできる。 楕円の標準形について理解し、楕円の概形をかいたり焦点や長軸、短軸の長さを求めたりできる。 双曲線の標準形について理解し、双曲線の概形をかいたり焦点や頂点、漸近線を求めたりできる。	○	○				16
			(思)	軌跡の考え方を用いて、放物線・楕円の方程式を導くことができる。 条件を満たす点の軌跡として、楕円の方程式を求めることができる。 軌跡の考え方を用いて、双曲線の方程式を導くことができる。 焦点がy軸上にある双曲線の方程式について、焦点がx軸上にある双曲線をもとに考察できる。	○	○		○		
			(態)	既知の円や放物線などの曲線を、条件を満たす点の軌跡として捉えなおそうとする。 焦点がy軸上にある楕円の方程式について、焦点がx軸上にある楕円をもとに考察しようとする。 反比例のグラフが双曲線であることに、興味・関心をもち、自ら考察しようとする。		○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	課題学習	(知)	これまでに学んだ内容に関する課題について、主体的に学習し、数学のよさを認識する。		○		○		14
			(思)							
			(態)							
合計										78

教科・分野：	理科	科目：	化学基礎演習	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	高等学校化学基礎（第1学習社）	副教材	自作プリント				

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を化学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

共通テスト等の受験に対応できる力をつける。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

										配当 時数
学期	考查	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	
1 学期	中 間 考 査	序章 化学と人間生活 第1章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素 ①物質の成分 ②物質の構成元素 ③状態変化と熱運動	(知)	・物質が混合物と純物質、および単体と化合物に分けられることを理解し、それらの違いを理解している。 ・粒子の熱運動と粒子間に働く力との関係によって、状態が変化することを理解している。	○		○	○	○	12
			(思)	・観察・実験を通して、混合物、純物質、単体、化合物について考察し、それぞれの特徴を説明できる。 ・粒子の熱運動と温度の関係や、粒子の熱運動と粒子間に働く力の関係をもとに、温度と物質の状態変化の関係を的確に表現することができる。	○		○	○	○	
			(態)	・物質に関心をもち、物質の取り扱い方を理解しようとする。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。			○	○	○	
1 学期	期 末 考 査	第2節 原子の構造と元素の周期表 ①原子の構造 ②イオン ③元素の相互関係	(知)	・原子の構造および陽子、中性子、電子の性質を理解し、知識を身に付けている。 ・原子の電子配置を理解し、原子番号20番までの代表的な典型元素について、簡単なモデルで表すことができる。	○		○	○	○	12
			(思)	・原子の電子配置と周期表の族や周期との関係を理解し、周期性が現れる理由を的確に表現することができる。	○		○	○	○	
			(態)	・物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとする。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。			○	○	○	

2 学 期	中 間 考 査	第3節 化学結合 ①イオン結合 ②共有結合 ③金属結合 ④結晶の比較 ⑤結晶と単位格子	(知)	・イオン結合やイオン結合でできた物質の性質を理解し、知識を身に付けている。 ・共有結合を電子配置と関連付けて理解し、共有結合の表し方や配位結合についての知識も身に付けている。 ・電気陰性度や結合の極性を理解し、分子の極性についての知識を身に付けている。 ・共有結合でできた物質の性質を理解し、知識を身に付けている。 ・金属結合や金属結晶の性質について理解し、知識を身に付けている。	○		○	○	○	16
			(思)	・イオン結晶の性質をイオンやイオン結合にもとづいて説明できる。 ・分子の極性を電気陰性度や結合の極性、分子の形をもとに総合的に判断できる。 ・金属結晶の性質を金属結合にもとづいて的確に表現できる。 ・物質の性質を調べる実験を通して、化学結合と結晶の性質の関係を考察できる。 ・観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。	○		○	○	○	
			(態)	・物質に関心をもち、物質の取り扱い方を理解しようとする。 ・物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとする。 ・物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子から成り立っていることを理解しようとする。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。			○	○	○	
2 学 期	期 末 考 査	第2章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式 ①原子量・分子量と式量 ②物質質量 ③溶解と濃度 ④化学変化と化学反応式 ⑤化学反応の量的関係 ⑥化学変化における諸法則	(知)	・物質の構成粒子の質量の表し方として、原子量・分子量・式量を理解している。 ・物質質量が粒子の数にもとづく量であることを理解し、物質質量と質量、気体の体積との関係も理解する。 ・水溶液の濃度を、モル濃度を用いて表したり、濃度のわかっている水溶液中の溶質の物質質量を計算によって求めることができる。 ・化学反応式を用いて化学変化を表すことができる。 ・物質質量の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。	○		○	○	○	16
			(思)	・化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを理解し、化学反応式をもとに物質の量的関係を判断できる。 ・実験で得られたデータをグラフ化するなどの処理を行い、結果を化学的に考察することができる。 ・化学反応の量的関係の実験から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。	○		○	○	○	
			(態)	・化学変化の量的関係を物質質量と関連付けて考察しようとする。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。			○	○	○	

3 学 期	学 年 末 考 査	第2節 酸と塩基の反応 ①酸と塩基 ②水素イオン濃度 ③中和と塩 ④中和滴定 第3節 酸化還元反応 ①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤の反応 ③酸化還元の量的関係 ④金属のイオン化傾向 ⑤電池 ⑥金属の製錬 ⑦電気分解 終章 化学が拓く世界	(知)	・酸と塩基の定義や分類を理解し、酸と塩基を価数や強弱にもとづいて分類することができる。 ・水溶液の性質(酸性・中性・塩基性)と水素イオン濃度やpHとの関係を理解し、知識を身に付けている。 ・中和反応について理解し、塩のなりたちや塩の水溶液の性質を理解している。 ・中和反応に関与する物質の量的関係を理解し、中和反応における酸と塩基の量的関係を計算によって求めることができる。 ・中和滴定の操作や中和滴定曲線を理解し、実験器具の適切な取り扱いやグラフの見方などの知識を身に付けている。 ・酸化・還元の定義を理解し、知識を身に付けている。 ・酸化還元反応を酸化数の増減によって判断することができる。 ・酸化剤、還元剤のはたらきを理解し、半反応式をもとに酸化還元反応を組み立てることができる。 ・酸化還元反応の量的関係を理解している。 ・金属のイオン化傾向や金属の反応性を理解し、知識を身に付けている。 ・酸化還元反応の利用例として、電池や電気分解などがあることを理解し、電池の構成などの基本的な知識を身に付けている。	○		○	○	○	22
		(思)	・酸・塩基の観察、実験から共通性を見だし、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて考察する。 ・中和滴定の実験を通して、それぞれの操作がどのような意味をもっているのかを理解し、実験結果に対してどのような影響があるかを考察できる。 ・代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見だし、自らの考えで表現できる。	○		○	○	○		
		(態)	・酸、塩基や中和反応に関心を持ち、それらを日常生活に関連付けて、意欲的に探究しようとする。 ・酸と塩基の反応の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。 ・燃焼、金属の溶解や腐食などの反応に興味を持ち、電子の授受という観点から、それらを意欲的に探究しようとする。 ・酸化還元反応の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。			○	○	○		
						合計	78			

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	理科	科目：	生物演習	単位数：	4 単位	指導学年：	3 学年
担当教諭：							
使用教科書	なし	副教材	自作のプリントなど				

年間指導目標：

生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	- 生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につけている。 - 自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を身につけている。 - 観察・実験の技能を習得している。	- 生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえられる。 - 科学的に探究する方法を身につけ、それらの過程や結果及びそこから導き出した考えを的確に表現することができる。	生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学 期	中 間 考 査	第4章 生物の環境応答 3節 植物の成長と環境応答 1章 生物の進化 1節 生命の起源と細胞の進化	(知)	- 植物が外部の環境に影響されてみせるさまざまな現象を、屈性などの伸長成長や、発芽、花芽形成などの器官分化などの学習を通じて身につけている。 - 植物の場合は、植物ホルモンの働きなどによって、環境に対する反応や調節が行われることを具体的に理解している。 - 生命の誕生に関する仮説について理解している。	○	○				24
			(思)	- 伸長成長や、発芽、器官分化などの現象が巧妙に制御されていること、それらがさまざまな実験によって明らかにされてきたことを理解し、科学的に判断できる。 - 実際に確認できない長大なスケールの時間に対しても、対比をすることで概要を把握できる。	○	○	○			
			(態)	- 植物の反応や調節が植物ホルモンによって行われていることを理解し、身につけようとする。 - 科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。		○	○	○	○	

1 学 期	期 末 考 査	2節 遺伝子の変化と進化のしくみ 3節 生物の系統と進化 2章 生物現象と物質 1節 細胞と分子 2節 生命現象とタンパク質	(知) ・歴史的な進化説と現在の進化説の基本的な発想の視点を踏まえ、底流にある基本概念を把握している。 ・現在では系統に基づく視点からの分類法が最も妥当性があるものとして承認されているという事実を理解している。 ・タンパク質の基本的な構造 ・性質についての学習を手がかりとして、酵素作用や免疫現象・筋収縮などが、タンパク質の特異性や多様性に基づいて展開されていることを理解している。 ・エネルギーの利用に際して、ATPがエネルギーの通貨として働いていることを理解している。	○	○				24
			(思) ・遺伝子が分配されるしくみである減数分裂について理解し、遺伝子の変化がどのように子に伝わるかを考察できる。 ・生物体にみられる様々な働きが、酵素による触媒作用をはじめとした、タンパク質の多様性および特異性に基づいていることを科学的に考察できる。	○	○	○			
			(態) ・現生種についての比較形態、比較発生、生物分布などの資料から進化の証拠を理解し、進化説の理解を深めようとする。 ・分子レベルでの生物現象の把握を主な目的として、タンパク質や核酸などの有機化合物の多様な働きが生物現象の基本になっていることを理解しようとする。 ・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとする。		○	○	○	○	
2 学 期	中 間 考 査	3節 代謝 第3章 遺伝情報の発現と発生 1節 遺伝情報とその発現	(知) ・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成からとり出すしくみを理解している。 ・メセルソンとスタールの実験結果とともに、半保存的複製のしくみを理解している。	○	○				32
			(思) ・エネルギーの利用に際して、ATPがエネルギーの通貨として働いていることを理解し、科学的に考察できる。 ・X-galを用いた大腸菌の培養実験をもとに、遺伝子発現がどのように調節されているのかを見いだそうとし、自分なりの考えを出すことができる。	○	○	○			
			(態) ・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとする。 ・遺伝子の発現調節のしくみについて、調節遺伝子やプロモーター、転写調節領域などの語句を用いて、一連の流れを理解しようとする。		○	○	○	○	

2 学 期	期 末 考 査	2 節 発生と遺伝子発現 3 節 遺伝子を扱う技術 第4章 生物の環境応答 1 節 動物の反応 2 節 動物の行動	(知) ・動物の配偶子のでき方を理解している。 ・発生のしくみについては、結果としてわかっていることを覚えているだけでなく、実験によって、そのしくみが次第に明らかになってきた過程を理解している。 ・神経の構造と興奮の発生・伝導・伝達の関係の学習から、動物が能動的に外部環境に反応することを理解している。 ・脳などの中枢神経系の働きを学習したことで、脊ついで動物のからだの巧妙に調節されていることを理解し、知識を身につけている。	○	○				
			(思) ・生殖細胞がつくられる過程と意義を科学的に考察できる。 ・受精については、生殖細胞の合体により染色体数が復元し、新しい体細胞のもとができる過程として理解しようとする。 ・発生の過程が、ヒトをはじめとした多くの生物に共通するものであることを実証的・論理的に分析し、総合的に考察し、表現することができる。 ・各受容体の構造と機能との関係、興奮の伝導や伝達のしくみ、興奮の神経における伝達経路について、整理して述べるができる。 ・骨格筋が収縮するしくみを理解し、筋収縮に必要なエネルギーがどのように供給されるのかについて考察できる。 ・学習による行動の発達と神経系の発達との関係を説明することができる。	○	○	○			
			(態) ・動物の発生とそのしくみについては、ヒトとの共通点のあるカエルについて学習し、形態形成運動や誘導などの働きによって複雑なからだの作りができあがっていく過程を理解しようとする。 ・発生のしくみについては、誘導現象など代表的な例について理解させ、実験によってそのしくみが次第に明らかになってきた過程に重点をおいて探究的に考察させる。 ・動物は環境の変化を受容する受容器をもつとともに、神経系など生物体のもつ巧みな制御機構や調節のしくみによって、安定した内部環境を維持していることを意欲的に理解し、探究しようとする。 ・動物の行動は、刺激の受容にはじまる一連のしくみによって成立していることを関心をもって理解しようとする。		○	○	○	○	

3 学 期	学 年 末 考 査	第5章 生態と環境 1節 個体群と生物群集 2節 生態系	(知)	・生物の集団を個体群としてとらえ、そこにみられる現象や法則性を理解している。 ・生態系の構造や働きと、その平衡のしくみを理解している。		○				44
			(思)	・生物の生活は環境と深い関わりをもっていることを、身近な現象についてとり上げながら、すでに学習した知識を活用して考えようとする。 ・異なる2種の個体群間の関係、さらに、より多くの個体群から形成されている生物群集の構造や働きとその変動を明らかにできる。 ・生態系の構造や働きを、物質循環・エネルギーの流れの観点から考察し、表現することができる。		○				
			(態)	・生物は生物集団として、無機的環境やほかの生物集団とのあいだでさまざまな関係をもちながら生活していることを理解することによって、環境と生物の関係を総合的にとらえようとする。 ・それまでに学習した内容から、人類の活動と自然破壊の関連性について考察し、自然保護・環境保全の意義を実感として理解しようとするとともに、主体的に行動できるような意識をもつ。		○		○	○	
									合計	156

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	理科	科目：	物理	単位数：	4	指導学年：	3年
担当教諭：							
使用教科書	物理（数研出版）	副教材	新編 アクセス総合物理（浜島書店）				

年間指導目標：

2年次で学習した物理基礎の内容を基礎に物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。また、物理的な事物・現象に対する研究心を高め、目的意識を持って観察・実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てる。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	2年次に物理基礎で学習した内容を踏まえ、基本的な原理や法則について、その成り立ちや意味を理解し、公式を必要に応じて利用して、問題を間違いなく解くことができるか。	科学的なものの見方・考え方ができ、説明できるか。 公式の導出課程が理解できるか。 公式を用いて計算ができるか。 初見の問題でも適切に考え、解答にたどり着けるか。	授業中にノートを取り、自分が理解できない所は適切に質問できているか。 グループで協力して問題に取り組み、解き方がわからないときは適切に教えあって、答えまでたどりつけているか。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考查	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学 期	中 間 考 査	第1編	(知)	公式を正しく問題に用いられているか。 間違いなく計算し答えにたどり着いているか。						24
		第1章 平面内の運動		○	○	○				
		第2章 剛体								
		第3章 運動量の保存	(思)	学習した内容を理解できたか。 原理や法則を理解し、公式を応用問題に適用できたか。	○	○				
	第4章 円運動									
	単振動 万有引力									
			(態)	プリントや課題に真面目に取り組んだか。 自分が理解できなかった点を質問できたか。 相手に合わせ適切に説明できたか。		○			○	
1 学 期	期 末 考 査	第2編 熱と気体	(知)	公式を正しく問題に用いられているか。 間違いなく計算し答えにたどり着いているか。	○	○	○			24
		第1章 気体のエネルギー 状態変化								
		第3編 波								
		第1章 波の伝わり方	(思)	学習した内容を理解できたか。 原理や法則を理解し、公式を応用問題に適用できたか。	○	○				
	第2章 音の伝わり方									
				(態)	プリントや課題に真面目に取り組んだか。 自分が理解できなかった点を質問できたか。 相手に合わせ適切に説明できたか。		○			

2 学 期	中 間 考 査	第3編 第3章 光波	(知)	公式を正しく問題に用いられているか。 間違いなく計算し答えにたどり着いているか。	○	○	○			32
		第4編 第1章 電場	(思)	学習した内容を理解できたか。 原理や法則を理解し、公式を応用問題に適用できたか。	○	○				
			(態)	プリントや課題に真面目に取り組んだか。 自分が理解できなかった点を質問できたか。 相手に合わせ適切に説明できたか。		○			○	
2 学 期	期 末 考 査	第4編 第2章 電流 第3章 電流と磁場 第4章 電磁誘導 交流 電磁波	(知)	公式を正しく問題に用いられているか。 間違いなく計算し答えにたどり着いているか。	○	○	○			32
			(思)	学習した内容を理解できたか。 原理や法則を理解し、公式を応用問題に適用できたか。	○	○				
			(態)	プリントや課題に真面目に取り組んだか。 自分が理解できなかった点を質問できたか。 相手に合わせ適切に説明できたか。		○			○	
3 学 期	学 年 末 考 査	第5編 第1章 電子と光 第2章 原子と原子核	(知)	用語の説明、関連を正しく用いられているか。 間違いなく計算し答えにたどり着いているか。	○	○	○			44
			(思)	学習した内容を理解できたか。 原理や法則を理解したか。	○	○				
			(態)	プリントや課題に真面目に取り組んだか。 自分が理解できなかった点を質問できたか。		○			○	
合計										156

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画(シラバス)

教科・分野：	保健体育	科目：	生涯体育(自由選択)	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	現代高等保健体育(大修館)	副教材					

年間指導目標：
①より深く専門的な運動の知識や技能を身に付ける。
②話し合いを通じて、仲間と協働しながら課題解決をする力を養う。
③進路を見据えた種目選択をおこない、より高みを目指して主体的に取り組む。

評価規準	知識・技能(知)	思考力・判断力・表現力(思)	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力(態)
	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、より専門的で高度な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、生涯を通してスポーツを継続するとともに、スポーツの推進及び発展に起訴する態度を養う。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学 期	中 間 考 査	オリエンテーション 体づくり運動	(知)	発見した動きの改善点や多様な仲間とともにスポーツを楽しむための調整の仕方、協議会の運営方法等などについて、活動場面で判断し仲間に伝えることができる。		○				12
		種目選択(前期) 以下の種目から選択 【球技】 ・ゴール型 バスケットボール ハンドボール サッカー ・ネット型 バレーボール	(思)	それぞれの競技の特性を踏まえたうえで、課題を発見し、思考し判断するとともに、仲間と協働しながら課題解決をすることができる。				○		
			(態)	生涯にわたってスポーツを楽しむ際の公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、学習に主体的に取り組むことができる。					○	
1 学 期	期 末 考 査	卓球 テニス バドミントン ・ベースボール型 ソフトボール	(知)	発見した動きの改善点や多様な仲間とともにスポーツを楽しむための調整の仕方、協議会の運営方法等などについて、活動場面で判断し仲間に伝えることができる。		○				12
		【陸上競技】 ・短距離走、ハードル走 ・走り幅跳び、走り高跳び	(思)	それぞれの競技の特性を踏まえたうえで、課題を発見し、思考し判断するとともに、仲間と協働しながら課題解決をすることができる。				○		
		【水泳】 ・クロール、平泳ぎ ・背泳ぎ、バタフライ	(態)	生涯にわたってスポーツを楽しむ際の公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、学習に主体的に取り組むことができる。					○	

2 学 期	中 間 考 査	オリエンテーション 体づくり運動	(知)	発見した動きの改善点や多様な仲間とともにス ポーツを楽しむための調整の仕方、協議会の運営 方法等などについて、活動場面で判断し仲間に伝 えることができる。		○				16
		種目選択(後期) 以下の種目から選択 【球技】 ・ゴール型 バスケットボール ハンドボール サッカー ・ネット型 バレーボール	(思)	それぞれの競技の特性を踏まえたうえで、課題を 発見し、思考し判断するとともに、仲間と協働し ながら課題解決をすることができる。				○		
		卓球 テニス バドミントン ・ベースボール型 ソフトボール	(態)	生涯にわたってスポーツを楽しむ際の公正、協 力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、 学習に主体的に取り組むことができる。					○	
2 学 期	期 末 考 査	卓球 テニス バドミントン ・ベースボール型 ソフトボール	(知)	発見した動きの改善点や多様な仲間とともにス ポーツを楽しむための調整の仕方、協議会の運営 方法等などについて、活動場面で判断し仲間に伝 えることができる。		○				16
		【陸上競技】 ・短距離走、ハードル走 ・走り幅跳び、走り高跳び	(思)	それぞれの競技の特性を踏まえたうえで、課題を 発見し、思考し判断するとともに、仲間と協働し ながら課題解決をすることができる。				○		
		【水泳】 ・クロール、平泳ぎ ・背泳ぎ、バタフライ	(態)	生涯にわたってスポーツを楽しむ際の公正、協 力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、 学習に主体的に取り組むことができる。					○	
3 学 期	学 年 末 考 査		(知)	発見した動きの改善点や多様な仲間とともにス ポーツを楽しむための調整の仕方、協議会の運営 方法等などについて、活動場面で判断し仲間に伝 えることができる。		○				22
			(思)	長距離走の特性を踏まえたうえで、課題を発見 し、思考し判断するとともに、仲間と協働しなが ら課題解決をすることができる。				○		
			(態)	生涯にわたってスポーツを楽しむ際の公正、協 力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、 学習に主体的に取り組むことができる。					○	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	英語	科目：	英語演習	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	BIG DIPPER English Communication II	副教材	Reading Flash Stage 2（桐原書店）、ALL EARS (PRE-ADVANCED)（美誠社） Cutting Edge Yellow（エミル出版）				

年間指導目標：
・ 大学入試に必要な語彙力、文法、語彙、熟語等の素地を養う。
・ 英会話等で使えるフレーズや語句を覚えて英会話を行う力を身に着ける。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	文法、英作文、語い・イディオム、リスニング等で必要となる力を用いて、英語の長文や英語の音声について要点を掴みながら内容読解・内容把握することが出来る技能を身に付けている。	本文等で語られている内容や場面、設問に応じて、自身の考えを英語及び日本語で適切に表現できている。 また、英会話で必要となる語句やフレーズを用いて自身の考えを英語で表現している	小テストや課題提出に向けて事前に自主学習を行い、適切な取り組みができています。 また、英会話をする場面においてはペアワークやグループワークにも積極的に取り組んでいる。

評価方法										
a:定期考査		b:パフォーマンス (実技・実習・課題)		c:小テスト等		d:自己評価		e:授業態度		配当 時数
学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	
1 学期	中間 考査	[教] Big Dipper II Lesson 1-4復習 [副] Reading Flash : Lesson 01-03 ALL EARS : Lesson 1-3 Cutting Edge : 1-2	(知)	各Unit本文の内容やリスニング内容について、大意を理解している。また、本文の語彙やGrammarの文法項目を用いて自身の考えを伝えたり、教科書の設問に答える技能を身に付けている。	○		○			14
			(思)	本文等で語られている内容や場面、設問に応じて、自身の考えを英語及び日本語で適切に表現できている。	○		○			
			(態)	小テストや課題提出に向けて事前に自主学習を行い、適切な取り組みができています。 また、英会話をする場面においてはペアワークやグループワークにも積極的に取り組んでいる。		○			○	
1 学期	期末 考査	[教] Big Dipper II Lesson 1-4復習 [副] Reading Flash : Lesson 04-05 ALL EARS : Lesson 4-5 Cutting Edge : 3-4	(知)	各Unit本文の内容やリスニング内容について、大意を理解している。また、本文の語彙やGrammarの文法項目を用いて自身の考えを伝えたり、教科書の設問に答える技能を身に付けている。	○		○			14
			(思)	本文等で語られている内容や場面、設問に応じて、自身の考えを英語及び日本語で適切に表現できている。	○		○			
			(態)	小テストや課題提出に向けて事前に自主学習を行い、適切な取り組みができています。 また、英会話をする場面においてはペアワークやグループワークにも積極的に取り組んでいる。		○			○	

2 学 期	中 間 考 査	[教] Big Dipper II Lesson 5-8復 習 [副] Reading Flash : Lesson 06-10 ALL EARS : Lesson 6-10 Cutting Edge : 5-9	(知)	各Unit本文の内容やリスニング内容について、大 意を理解している。また、本文の語彙やGrammar の文法項目を用いて自身の考えを伝えたり、教科 書の設問に答える技能を身に付けている。	○		○			20	
			(思)	本文等で語られている内容や場面、設問に応じ て、自身の考えを英語及び日本語で適切に表現で きている。	○		○				
			(態)	小テストや課題提出に向けて事前に自主学習を行 い、適切な取り組みができている。 また、英会話をする場面においてはペアワークや グループワークにも積極的に取り組んでいる。		○			○		
2 学 期	期 末 考 査	[教] Big Dipper II Lesson 5-8復 習 [副] Reading Flash : Lesson 11-14 ALL EARS : Lesson 11-14 Cutting Edge : 10-13	(知)	各Unit本文の内容やリスニング内容について、大 意を理解している。また、本文の語彙やGrammar の文法項目を用いて自身の考えを伝えたり、教科 書の設問に答える技能を身に付けている。	○		○			20	
			(思)	本文等で語られている内容や場面、設問に応じ て、自身の考えを英語及び日本語で適切に表現で きている。	○		○				
			(態)	小テストや課題提出に向けて事前に自主学習を行 い、適切な取り組みができている。 また、英会話をする場面においてはペアワークや グループワークにも積極的に取り組んでいる。		○			○		
3 学 期	学 年 末 考 査	[教] Big Dipper II Lesson 9-10 復習 [副] Reading Flash : Lesson 15-17 ALL EARS : Lesson 15-17 Cutting Edge : 14-16	(知)	各Unit本文の内容やリスニング内容について、大 意を理解している。また、本文の語彙やGrammar の文法項目を用いて自身の考えを伝えたり、教科 書の設問に答える技能を身に付けている。	○		○			10	
			(思)	本文等で語られている内容や場面、設問に応じ て、自身の考えを英語及び日本語で適切に表現で きている。	○		○				
			(態)	小テストや課題提出に向けて事前に自主学習を行 い、適切な取り組みができている。 また、英会話をする場面においてはペアワークや グループワークにも積極的に取り組んでいる。		○			○		
										合計	78

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	デザイン	科目：	テキスタイルデザイン	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	無し		副教材	自作プリントなど			

年間指導目標：
必修授業に組み込まれているテキスタイルの時間内ではなかなかできない、テキスタイル技法を使って、作品を制作する。また、生活の中で使われているテキスタイルデザインの幅を実感し興味が持てるように、テキスタイル商品やテキスタイル作品を考える。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・ 2年時に学習したテキスタイルの内容を理解し、作品制作に応用出来る。 ・ 様々なテキスタイル技法や様々な作品を新たに理解し、作品制作に生かすことが出来る。	・ 学習したテキスタイル技法を、事前準備や作品の仕上がりに活かし、オリジナリティある成果物に仕上げる事が出来る。	・ 自ら積極的に授業に参加し、興味関心を持って粘り強く最後まで取り組むことが出来る。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中間 考査	・ 全体説明 ・ 型染 型堀の理解 中心送りのリピート で、1/4柄を考える	(知)	・ 型染めの基本を理解し、作品発想に生かすことが出来る。		○		○	○	12
			(思)	・ 繰り返してできる文様を、美しく組み合わせることが出来る。		○		○	○	
			(態)	・ アイデア展開計画を根気よく取り組んで、提出期日を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○	
1 学期	期末 考査	・ 型染 オパール染め 抜染染め	(知)	・ 加工糊による糊置き技法を理解できる。 ・ 抜染技法の基本を理解し、アイデア展開に応用できる。		○		○	○	12
			(思)	・ 型染めに興味を持ち、型作りの意匠に生かすことが出来る。		○		○	○	
			(態)	・ アイデア展開計画を根気よく取り組んで、提出期日を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	②シャギー織り 絨毯織の一種である シャギー織りで、ミニタペ ストリーを制作。 シャギー織りの技法を 理解する。 シャギーの技法に合う デザインを考える。	(知)	・シャギー織の特性を理解し、獣毛と化学繊維使 用時の違いなど、材料による特性変化を理解して いる。		○		○	○	16
			(思)	・起毛での違いなどを理解し、制作物の仕上げを 考えてデザインが出来る。		○		○	○	
			(態)	・アイデア展開計画を根気よく取り組んで、提出 期日を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	シャギー織り 絨毯織の一種である シャギー織りで、ミニタペ ストリーを制作。 シャギー織りの技法を 理解する。 シャギーの技法に合う デザインを考える。	(知)	・使用素材の特性を考えて、造形に反映させるこ とが出来る。		○		○	○	16
			(思)	・起毛素材を活かしたデザイン案と、その特性を 生かした作品を制作することが出来る。		○		○	○	
			(態)	・アイデア展開計画を根気よく取り組んで、提出 期日を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	作品の発表、鑑賞、講評	(知)	・作品を発表し、生徒同士の工夫した点を理解す ることが出来る。		○		○	○	4
			(思)	・作品発表に向けてポイントをまとめ、成果物の 魅力を伝えることが出来る。		○		○	○	
			(態)	・計画を立てて根気よく取り組み、提出期日を 守って仕上げる事が出来る。 ・他の生徒作品をよく観て理解し、様々な面で今 後に生かす事が出来る。		○		○	○	
合計										60

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	3年自由選択	科目：	デッサン構成	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	なし	副教材	なし				

年間指導目標：
造形表現活動の基礎であるデッサン及び構成の知識と技術を学習し、進路実現に向けた能力を身につけ、実際に活用する能力を修得する。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	様々な基礎図法に基づいた描画法と、表現のための観察ポイントを理解する。	緻密で多角的な観察に基づき、課題に対して的確な表現方法を判断する力をつける。	入学時から会得した学習内容と、様々なアドバイスを活かし、自らの確かつ効果的な方法を工夫して見つけ出している。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中 間 考 査	■クロッキーによる描画力向上。 ・ 静物、組み合わせモチーフ、人物など ・ 10分、5分、3分、1分と、徐々に時間短縮して描画する。 ・ 短時間で的確に構図を捉えて描画する技術の習得。	(知)	・ 以前学習した図法を理解して活かせる。 ・ 画面に対して構図や比例を分ける理論を理解している。 ・ 学習内容が作品に反映されている。		○		○	○	12
			(思)	・ 短時間で対象を的確に描画することができる。 ・ 短時間で的確な構図を捉えることができる。 ・ 輪郭線などの簡素な方法で、質感を描き分けることができる。		○		○	○	
			(態)	・ 提出期限内に課題提出の条件を満たしている。 ・ 的確に道具を使用して仕上げている。 ・ 取組が作品の完成度に反映している。		○		○	○	
1 学期	期 末 考 査	■静物デッサン ・ 異質な質感同士を組み合わせたモチーフ。 ■平面構成 ・ 動的な構成を持つモチーフ構成。	(知)	・ 画面と構図の関係を理解している。 ・ モチーフの配置と比例を理解している。 ・ 個々の質感を理解し、作品に反映している。		○		○	○	12
			(思)	・ モチーフの意図を理解し、作品に活かしている。 ・ 画面構成の基礎が、課題テーマに活かされている。 ・ 質感と描画表現が整合している。		○		○	○	
			(態)	・ 提出期限内に課題提出の条件を満たしている。 ・ 的確に道具を使用して仕上げている。 ・ 取組が作品の完成度に反映している。		○		○	○	

[illegible]

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	デザイン	科目：	自由選択 立体プロダクト	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	無し		副教材	自作プリント			

年間指導目標：
具体的な指導目標 さまざまな素材に触れ、それぞれに合った加工方法を習得する。その中で、日本の伝統工芸を理解しながら、機能と技術を習得する。また道具の使い方も学び、安全かつ正しい使い方を習得しながら授業を進める。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・機能性について理解している。 ・材料の特徴を理解している。 ・材料にあった加工法を理解している。	・材料特性を理解して形を考えている。 ・使い勝手、使用者を考えた造形をしている。 ・形が機能と美しさを両立している。	・自ら積極的に授業に参加し、興味関心を持って粘り強く最後まで取り組むことが出来る。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中間 考査	・オリエンテーション 日本の機能造形。伝統工芸とプロダクトデザインの相違点。 ・寄木細工：ふた付きの箱の制作 適した木材同士の圧着	(知)	・伝統工芸とプロダクトデザインの相違点を理解して説明できる。 ・機能を考えて制作物のアイデアを提示できる。		○		○	○	12
			(思)	・可動部や機能を考えたデザインを考えている。 ・圧着のための固定法を、造形に生かして使用できる。		○		○	○	
			(態)	・アイデア展開計画を根気よく取り組み、提出期日を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○	
1 学期	期末 考査	・寄木細工：ふた付きの箱の制作 木材の圧着調整 鉋による「づく」作成と貼付け 組木による木箱の組み立て	(知)	・寄木細工における使用木材を的確に選択できる。 ・鉋掛け、厚さ揃え等の技法を理解して造形できる。		○		○	○	12
			(思)	・木材の特性を考えて、自分の意匠を反映した加工ができる。 ・道具の用途と性質を理解して、適切に使用できる。		○		○	○	
			(態)	・アイデア展開計画を根気よく取り組み、提出期日を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	・真鍮の加工：スプーン 真鍮の特性理解 材料特性と使い勝手を考 えたデザイン案 金属切削加工技術の習得	(知)	・真鍮の素材特性を理解している。 ・加工技術と手順を理解し、準備できる。		○		○	○	16
			(思)	・真鍮の素材特性を理解し、機能性を考えた形態 を考えることが出来る。		○		○	○	
			(態)	・アイデア展開計画を根気よく取り組み、提出期 日を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	・真鍮の加工：スプーン 金属切削加工技術の習得 鍛金技術の習得	(知)	・真鍮という金属素材の特性を考えて、造形に反 映させることが出来る。		○		○	○	16
			(思)	・真鍮の素材特性を理解し、機能性を考えた形態 を考えることが出来る。		○		○	○	
			(態)	・アイデア展開計画を根気よく取り組み、提出期 日を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	作品の発表、鑑賞、講評	(知)	・作品を発表し、生徒同士の工夫した点を理解す ることが出来る。		○		○	○	4
			(思)	・作品発表に向けてポイントをまとめ、成果物の 魅力を伝えることが出来る。		○		○	○	
			(態)	・計画を立てて根気よく取り組み、提出期日を 守って仕上げる事が出来る。 ・他の生徒作品をよく観て理解し、様々な面で今 後に生かす事が出来る。		○		○	○	
合計										60

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	デザイン	科目：	映像デザイン	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	無し	副教材	自作プリント				

年間指導目標：
さまざまな映像作品に触れ、カメラアングルや構図など理解する。映像の基本的な知識を踏まえ、Adobe premiere proを使用しながら授業を進める。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・映像制作の流れを理解して、制作に生かすことができる。 ・モデリングクレイで動画セットを造ることができる。 ・動画編集の基礎を理解している。	・基礎的な映像技術を組み合わせて応用できる。 ・クレイで動きを考え、動画効果を自分で工夫できる。 ・動画編集を映像の目的に合わせてできる。	・計画的に制作に取り組み、完成に向けて最後まで取り組むことができる。 ・基礎知識と技術を駆使して、応用した方法を考え出すことができる。 ・作品発表で、制作意図やポイントを伝えることができる。

評価方法											配当 時数
a:定期考査		b:パフォーマンス (実技・実習・課題)		c:小テスト等		d:自己評価		e:授業態度			
学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e		
1 学期	中 間 考 査	・ 概要説明、参考作品鑑賞 ・ メタモルフォーゼ（形態 変化動画） アイデア（企画、コン テ） 制作、撮影	(知)	・ 基本的な映像制作プロセスを理解し、アイデア 展開を組み立てることが出来る。		○		○	○	12	
			(思)	・ 形態の変化を想定して、プロセスを絵コンテに 置き換えることが出来る。		○		○	○		
			(態)	・ アイデア展開計画を根気よく取り組んで、提出 期日を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○		
1 学期	期 末 考 査	・ メタモルフォーゼ（形態 変化動画） 撮影（造形、動画撮影） 編集（Adobe premiere pro)	(知)	・ 撮影内容を活かして、Adobe Premiere proの基 礎操作を理解して制作ができる。		○		○	○	12	
			(思)	・ カメラアングル、構図で印象が変化する事を理 解し、応用して映像制作ができる。		○		○	○		
			(態)	・ 編集計画を立てて根気よく取り組み、提出期日 を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○		

2 学 期	中 間 考 査	・モデリングクレイ 造形（人形、セット制 作） 撮影	(知)	・基本的な映像制作プロセスを理解し、アイデア 展開を組み立てることが出来る。		○		○	○	16
			(思)	・形態の変化を想定して、プロセスを絵コンテに 置き換えることが出来る。		○		○	○	
			(態)	・アイデア展開計画を根気よく取り組んで、提出 期日を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	・モデリングクレイ 造形（人形、セット制 作） 撮影	(知)	・撮影内容を活かして、Adobe Premiere proの基 礎操作を理解して制作ができる。		○		○	○	16
			(思)	・カメラアングル、構図で印象が変化する事を理 解し、応用して映像制作ができる。		○		○	○	
			(態)	・編集計画を立てて根気よく取り組み、提出期日 を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	・モデリングクレイ 編集 ・鑑賞、振り返り	(知)	・学習内容を理解し、他の生徒の優れた点を挙げ ることが出来る。		○		○	○	4
			(思)	・自分の映像制作を通して、他の生徒作品の作品 制作プロセスを考えることが出来る。		○		○	○	
			(態)	・計画を立てて根気よく取り組み、提出期日を 守って仕上げる事が出来る。 ・他の生徒作品をよく観て理解し、自分の作品に 生かすことが出来る。		○		○	○	
合計										60

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業・クラフト	科目：	応用CAD演習	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	自作プリント	副教材					

年間指導目標：
（１）３次元C A Dに関する基礎・基本を身に付ける。
（２）３次元C A Dの理論や操作等の学力を身に付ける。
（３）２次元C A Dは製図をするのに対し３次元C A Dは概念設計を行う。お互いの長所・短所を理解する。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	3次元CADの学習に必要な基本的な知識・技能を身につけている。	3次元CADの問題処理能力について、C A D製図の状況・結果、原理・法則などから課題解決に向けて考え、判断・工夫し解決している。	3次元CADの内容に関連し、積極的に取り組み、学習を通じて探究する能力・態度を身につけている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期		1. 3 D C A Dの基礎 ①3 D C A Dの概要について ②3 D C A Dの基礎について ③3 D C A Dの機能について ④3 D C A Dシステムについて 2. 3 D C A Dの基本操作 ①3 D C A Dの基本操作について ②立体図形の作成機能について	(知)	基本的な概念や原理・法則が理解できたか。		○	○	○	○	28
			(思)	学習を通じて探究する能力・態度が身に付いたか。		○	○	○	○	
			(態)	積極的に研究に取り組んだか。		○	○	○	○	
			(知)	基本的な概念や原理・法則が理解できたか。		○	○	○	○	
			(思)	学習を通じて探究する能力・態度が身に付いたか。		○	○	○	○	
			(態)	積極的に研究に取り組んだか。		○	○	○	○	

2 学 期		3. 3DCAD ①機械部品の作成 ②CAD・CAMについて ③概念設計について	(知)	基本的な概念や原理・法則が理解できたか。		☐	☐	☐	☐	32
			(思)	学習を通じて探求する能力・態度が身に付いたか。		☐	☐	☐	☐	
			(態)	積極的に研究に取り組んだか。		☐	☐	☐	☐	
			(知)	基本的な概念や原理・法則が理解できたか。		☐	☐	☐	☐	
			(思)	学習を通じて探求する能力・態度が身に付いたか。		☐	☐	☐	☐	
			(態)	積極的に研究に取り組んだか。		☐	☐	☐	☐	
3 学 期		4. 3DCAD製図の作図 (2) ①CAD・CAMについて	(知)	基本的な概念や原理・法則が理解できたか。		☐	☐	☐	☐	18
			(思)	学習を通じて探求する能力・態度が身に付いたか。		☐	☐	☐	☐	
			(態)	積極的に研究に取り組んだか。		☐	☐	☐	☐	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業・システム情報	科目：	システム数理	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書		副教材	自校作成資料等				

年間指導目標：
電気・電子・情報工学の基礎である電気回路や電磁気学における事象の数理処理に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	電気・電子・情報に用いられる数学の基礎的な知識・技能について各単元で学習した内容がどれだけ理解されたかを、小テストで測定し、評価する。	電気・電子・情報に用いられる数学に関する課題に対し学習内容を考え、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断・対応できる。	電気・電子・情報に用いられる数学に関する諸問題の解決を目指して広い視野から自ら考え、学習した知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中間 考査	1 特殊関数の微分・積分 ①ネイピア数e ②RC直列回路における過渡現象	(知)	微分の基礎について理解している。	○	○	○	○	○	12
			(思)	ネイピア数e理解し、課題解決に応用できる。	○	○	○	○	○	
			(態)	実際の電子回路について関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。	○	○	○	○	○	
1 学期	期 末 考査	1 特殊関数の微分・積分 ①三角関数 ②交流回路の平均値 2 複素数 ①交流回路の位相 ②ベクトル	(知)	微分の基礎について理解している。	○	○	○	○	○	12
			(思)	複素数iを理解し、課題解決に応用できる。	○	○	○	○	○	
			(態)	実際の電子回路について関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。	○	○	○	○	○	

2 学 期	中 間 考 査	1 特殊関数の微分・積分 ①三角関数 ②交流回路の平均値	(知)	微分の基礎について理解している。	○	○	○	○	○	16
		2 複素数 ①交流回路の位相 ②ベクトル	(思)	複素数iを理解し、課題解決に応用できる。	○	○	○	○	○	
		(態)	実際の電子回路について関心を持ち、意欲的に学 習に取り組んでいる。	○	○	○	○	○		
2 学 期	期 末 考 査	3 ニューラルネットワーク ①パーセプトロン ②重みベクトルの更新 ③画像認識 ④行列	(知)	AIの基礎について理解している。	○	○	○	○	○	16
		(思)	重みベクトルを理解し、課題解決に応用できる。	○	○	○	○	○		
		(態)	ニューラルネットワークについて関心を持ち、意 欲的に学習に取り組んでいる。	○	○	○	○	○		
3 学 期	学 年 末 考 査	3 ニューラルネットワーク ①パーセプトロン ②重みベクトルの更新 ③画像認識 ④行列	(知)	AIの基礎について理解している。	○	○		○	○	22
		(思)	重みベクトルを理解し、課題解決に応用できる。	○	○		○	○		
		(態)	ニューラルネットワークについて関心を持ち、意 欲的に学習に取り組んでいる。	○	○		○	○		
合計										78